



# 社長 & 会長 対談



この冊子の完成を記念して、当社の歴史や深い～話ができればと思って藤田秀人会長との対談の場を作りました。会長よろしくお祈いします。

はい。よろしくお祈いします。

んじゃまず、このマンガの感想を聞かせてください。



非常に素晴らしいですね。うちの会社のこれまでの流れがわかりやすくまとめられているし、凝縮されていると思います。どんな方でも概要を掴んでもらえるだろうと感心しています。

印象に残ったコマはありますか？

はい、まずは創業者の藤田勝夫（以下、親父）が、最初のコマで自転車で二ワトリを買いに行ったところから、最後の浜鶴ラーメンのおみやげグランプリ銀賞受賞につながっていく辺りは、とても感慨深いですね。それから新社屋の地鎮祭、まさかこの2日後に大地震が来るとは思いも寄らなかった。あれから10年経つのかと思うとね、いろんな想いがこみ上げてくるね。



ですよー。本当にいろいろ思い出しますね。思い出すついでに、少し昔の話を聞きたいと思います。鳥藤の創業期、会長が幼い頃の出来事で覚えてることってありますか？



そうだなー。富岡町で「鳥藤食堂」が始まった頃、まだ社長は生まれる前だけど、マンガにもあったえびず講市の時は自宅の茶の間や二階、寝室にまでお客さんを入れてたんだよね。行列が途絶えない状態だったよ。だから私は居場所がなかった（笑）  
えびず講市の時は、双葉郡内からたくさんの方が富岡町に来て、富岡に来たら鳥藤でラーメン食べようってお客さんが多かったんだよね。

なんかすごく活気を感じますね。

6号国道沿いに店をオープンした時も、周りには何もなくて夜中の12時過ぎでもお客さんが途絶えないほどの大盛況だった。親父の挑戦の積み重ねがそういうお店を作ったんだよね。

何しろ新しいことやるのが大好きで、それも「お客さんを喜ばせたい」って一心だったと、今はそれがよくわかります。



私も高校時代に「挑戦なくして喜びも感激もなし」って筆で書いた色紙を「部屋に飾っておけ」ってもらいました。

この言葉「喜びも感激も」ってところがどちらもプラス言葉で好きだったんです。当時の私は「挑戦しないといいことはないんだぞー」って受け取って、それが私の土台を作ってくれたと思います。

やっぱり創業の精神を引き継いでいくことは、大事だよ。やり方は変わっていくにしても創業の精神を心に刻んでおく。不易流行だね。浜鶏ラーメンはその象徴だと思うよ。大変よくできました（笑）

あざーっす！

浜鶏ラーメンは、本当にみーんなのおかげで完成したし、ここまで販売数を伸ばすことができたと思ってます。スタッフのみんなにも創業時の歴史にも改めて感謝したいです。そしてまだまだ育てていきたいと思ってます。

では続いて、質問を変えたいんですが、会長が社長時代に大切にしていた考え方ってどんなことだったか教えてください。

はい。これは私が専務の時なんですけど、渡辺雅文先生と出会って考え方が大きく変わったんですよ。

商工会の研修で渡辺先生に出会ったんですが、その時に「会社は大きくしなくていい。大きくすることよりも、潰れない丈夫な会社にすることが大事」と仰っていて、それがもう衝撃で。

親父はどちらかという拡大路線でしたので、渡辺先生から大きくするより潰れないことって教えていただいて、まさに目からウロコが落ちた思いでしたし、それでいいんだとホッとしました。

なるほど、それで堅実な経営に徹してきたんですね。

そのおかげで借金も完済できて、震災時には無借金だった。無借金だったおかげで私たちはジャンジャン挑戦できた（笑）

それと、北九州の池田繁美先生から教えていただいたことに「人は何かを思うから行動する」というのがあって、起きていることに対して、どういう思い方をしているか、何を思うかでその人の行動は決まってくるんだって。だからひねくれて考えたり、斜めから捉えたりするんじゃなくて、「素直さ」が大事。





まずは「はい」って言えること。そばで聞いていても気持ちがいいです。人の話は、まずは「はい」と言って受け止めて、自分の意見はその後話すこと。「はい」は「素直さ」の現れだし、「はい」は「拜」で敬意の現れでもある。そしてもうひとつ。国民の教育の父と言われた森信三先生は「あいさつ」「返事」「はきものをそろえる」をしつけ3原則として、小さいうちに身につけておくことが大事だと言っています。足元のゴミひとつ拾えない人間に何ができるだろうか！ってね。



ですね。私もまずは「はい」という返事の徹底からやり直しですね（笑）会長の話を聞いて「素直さ」とか、「あいさつ」「返事」「はきものをそろえる」を実践することの大切さを改めて感じますよ。こういう日常のさりげないことこそ大事で、さらに「さっと行動」できるか。

そうそう！いい習慣を身につけること。「運命はその人の性格の中にあり」って、文豪として著名な芥川龍之介さんの言葉です。これは性格というより、どんな習慣を持っている人なのかってこと。その習慣が運命を決定づけているという意味だと思うんです。悪い習慣を直すというよりも、新しくいい習慣を身につける努力を続けていくことで、運命まで変わっていく。「いい習慣を身につけること」は、何よりも大切な習慣だと思います。

そうですね！「いい習慣を身につける習慣」って、いい人生の武器ですよ。流行らせましょう（笑）



さてさて、経営理念を伝えるというのもこの冊子の大きな目的だと思いますが、社長が一番伝えたいことはなんですか？



はい。まずは、会社の歴史をみなさんに知っていただくこと、そして経営理念の重要性を共有したいと考えたんですね。震災の直前はどの部署でも朝礼やミーティングで経営理念を唱和していましたし、会社の一体感も感じられるようになっていたじゃないですか。学ぶ風土みたいなものが出来つつありましたよね。

そーだよー。

だけど、震災で全員がバラバラになって、仕事もゼロになっちゃって。あの時は、何しろ仕事を作るぞ！って、前に前に進むことしか考えられなかったんですよ。私自身の心も荒んでいたし、経営理念を浸透させるとかみんなて学ぶとか、そういった大切なことを後回しにしてしまった。

これが私にとっては大きな反省なんです。

やはり、経営理念は超重要で、考え方やものごとの見方や捉え方をみなさんと共有し、共に学び続けていきたいと思っています。

そして、今回出来上がった経営理念の中で私が最もお伝えしたいことは、言葉としては書いていませんが「働く幸せを実現していきたい」ということです。



働く幸せってどこかで聞いたような気がしますね。いいフレーズです



経営理念を再吟味していく中で、もう一度勉強させてもらって、何度も自問自答を繰り返しました。「なんのために会社はあるのか」「なんのために経営するのか」って。

そうやってたどり着いた、一番しっくりきた言葉が「働く幸せの実現」だったんです。私の考えるいい会社の条件のひとつは、働くみなさんが「鳥藤で働けてよかった」「このローソンで仕事ができてよかった」と思えること。そんな職場を作りたいですし、みんなと一緒にいい会社を作っていきたい。強くそう思っています。

日々の仕事を通して一人ひとりが業務能力を向上させていく中で、人間的にも成長して「働く幸せ」を実現していく。そういう人財が少しずつでも地域社会の発展に貢献していく。その輪が広がって創造的な未来が次世代へと受け継がれていく。そうになったら素敵じゃないですか。

会社は公器っていうからね。自分たちの幸せだけ実現していくんじゃなくて、その先に地域貢献とか、次世代への繋がりとかがある。

はい。それが私の考えるいい会社です。  
みんなの幸せを追い求めて、ひとつひとつ実現していきたいです。

いやー今日はなかなかいい話ができたとと思います。  
それじゃ、最後に鳥藤とトータルフードサービスの仲間たちに社長からのメッセージで締めくくりましょうか。



はい。ありがとうございます。

みなさん、縁あって当社の仲間になっていただき本当にありがとうございます。そして毎日の業務をはじめ、職場や会社をよりよくしようと努力してくれていることに、心から感謝します。

繰り返しになりますが「なんのために会社があるのか」そして「何のために働くのか」の答えは『働く幸せの実現』です。  
これを実現するために、私は精一杯努力しますし、思いっきり楽しみます。そのひとつひとつの過程が私にとっての幸せだと思っています。  
どうか、みなさんも自分にとっての「働く幸せ」って何だろうって考えてみてください。その上で、何度も何度もこの冊子を読んでください。  
この冊子は、読めば読むほど幸せが訪れるように作られています。(笑)  
何度目かわかりませんが、最後まで読んでくれてありがとうございます！  
共に学び、共に成長し、共にいい会社をつくりましょう！

